

令和3年度学校評価報告

04 下高井農林高等学校

評価項目	項	自己評価	学校関係者評価	評価点	次年度に向けた改善策
進路指導	1	コロナの影響で、キャリア教育を計画的に進めることに苦労をした。特に、地元企業や農業における研修から職業について学び、地域を支える人材を育てたいという目的で計画した「キャリア研修」が実施できなかったことは残念だった。しかし、進路講話や個人面接を充実させ、計画的に進路指導を行うことができた。	コロナ禍のため、キャリア研修が実施できなかったことは残念ではあるが、教員も方なく、代替として高校内企業説明会を実施いただき、生徒個々が自身の将来を見つめることができたと思う。今後もキャリア教育の充実をお願いしたい。	4.0	次年度も、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮した計画的な指導が求められる。特に、地元企業との情報交換を伝えるため、高校内企業説明会など新たな取組みを企画し、進路実現に繋がるよう指導にあたりたい。
	2	例年同様、生徒の希望を優先しながら指導を進めた。特に、就職希望者は、コロナの影響で企業情報を得ることが困難であったが、生徒・保護者との面談を重ね、必要に応じて企業等の開拓を行うなど、指導の充実を図った。	進路相談の充実が、進路結果に現れたと感じる。手厚い指導に感謝するとともに、今後も継続をお願いしたい。	4.1	新型コロナウイルスへの感染や社会情勢の変化が求人数にどのような影響を及ぼすの心配配される。企業との情報交換を密にし、事前の対応を考え指導にあたりたい。
授業展開	1	ICTを活用した「主体的対話的な学び」への授業転換をより一層図るため、定期的に職員研修会や研究授業等を実施し、個々の生徒の興味・関心を高める授業を展開した。また、オンライン授業においても工夫を凝らし、生徒の学習意欲の向上を図った。	オンライン授業だけでは学力の向上は難しい面があるかと思う。しかし、生徒の授業評価が高いのは非常に良いことで、学習意欲の向上に対する取組みを今後も継続してほしい。	4.0	ICTの活用促進をさらに進め、対面での授業における生徒の主体的な学びを一層引き出すとともに、オンライン授業においても生徒の学びを深めるため、引き続き活用方法等に関する校内研修の充実を図る。
	2	専門学習の充実が課題研究の成果として現れている。資格取得ではコロナ対策を実施し、計画的に展開ができた。のべ300人以上の生徒が資格を取得した。	資格を取得することはとても大切で、農林高校の特色でもある。今後も取組みを充実してほしい。	4.3	教育成果が最大限に発揮できる授業展開や資格取得教育について検討する。特に普通教科を含めた広い視点からの体系的な学習の確立により、専門学習の一層の充実を図る。
生徒指導	1	基本的な生活習慣・授業規律の確立、問題行動の予防、交通安全意識の向上を柱に指導を行い、ほとんどの生徒がルールを守り、規律正しい生活が出来ている。また、服装・頭髮の指導、朝と昼の立ち番、授業中の巡回指導にも取り組んでおり、生徒は落ち着き、真面目に高校生活を送っている。	生活の乱れは心の乱れということもあり、校内巡回等が生徒の心の状態把握にもつながることを期待する。互いに心地よい生活環境・学習環境をつくるという点でも生活が落ち着いていることは大変良いことだと感じる。	4.0	職員全体で、継続した指導を行っていく。問題行動や服装・頭髮の乱れに対しては、担任を中心に迅速に対応してもらい、基本的な生活習慣が確立出来るようにする。落ち着いた環境を整え、前向きに高校生活が送れるようにする。
	2	生徒への指導について、問題行動発生時やいじめなどの訴えに対し、全職員が情報共有をし、迅速かつ個々の事案に応じた的確な対応を行えたと考える。	情報を共有することはとても大切で、今後も的確な対応を継続できるようにしてほしい。	4.0	まず、担任には、クラスや個々の状況をしっかりと把握してもらい、生徒の変化や訴えに対し、迅速に対応し情報の共有と的確な対応を行っていく。
健康安全指導	1	感染症予防対策を徹底するため、校内放送やオクレンジャーを活用するなどして生徒の意識の向上を図り、その実践に結びつけた。また、学校全体が一丸となって感染しにくい環境の整備やアルコール消毒、行事の見直しとオンライン授業の導入等に取り組んだ。	新型コロナの感染拡大で、学校として気を使うことも多いと思う。今後も感染を最小限に抑える取組みを継続いただきたい。	4.0	感染症予防対策に関する情報収集を進め、生徒及び保護者への情報提供を継続し、感染拡大防止に一層努める。並行して感染予防のための環境整備を進めるとともに、生徒会が主体となって全校に感染防止を呼びかけるなどの啓発活動の充実を図る。
	2	GAP学習やHACCP学習を通して、危険箇所の改善や危害分析および作業者の労働安全について学び、安全管理や衛生管理について理解を深めることができた。また、理科の実験や部活動においても、安全意識の高揚に努め、学びの充実に着目した。	先を見通して行動する（リスク回避）には、状況に応じた指導を繰り返すことが大切だと考える。	3.9	今後もGAP学習やHACCP学習を継続することにより、生産に関わるリスク管理の重要性と必要性について、生徒自身が理解を深められる授業を行う。また、1学期に救急救命講習会を実施し、安全指導の充実を図る。
教育支援	1	毎週の教育相談係会・学年会・職員会で生徒状況報告を行い、全職員が情報を共有。年4回外部専門家と交えてのスクリーニング会議で生徒支援を深めた。カウンセリングは毎月希望者対象に行い、緊急時はその都度行っている。	全職員での情報共有体制が確立されていることはとても良いことだと感じる。	3.7	職員の情報共有、外部専門機関との連携をより深め、生徒の学校生活充実を図る。また生徒が相談しやすい環境作りを努める。
	2	学校生活アンケート（アセス・学校適応感尺度）を2回実施し、学習的適応の結果から困り感のある生徒を把握して、授業内容の充実を図った。	年齢的に自ら相談する生徒は少ないかと思うため、個々の生徒の様子の把握に努めてほしい。	4.0	個々の生徒の特性を把握し、教科毎の学習支援を丁寧に行い、授業内容の充実を図る。学校生活アンケートも活用し、生徒の自己肯定感向上に努める。
	3	農業クラブ各種県大会測量競技や校内行事の準備・運営を、個々が責任を持って取り組んだ。この経験により、大きな達成感を得たことで自己肯定感を高め、活動の活性化や自主性の向上を図った。また、目頃の学びや生徒会活動の中で芽生えた地域貢献に対する強い思いが、SDGs行動憲章制定へとつながった。	近年、生徒が自主的に活動している様子が伝わる場面が多く見受けられる。また、地域貢献に対する取組みの姿勢がとても良く、先生方のフォローによって一層自己肯定感を持てるようになって感じる。	4.0	感染症対策を講じながら、SDGsの理念を踏まえ、どのようなイベントの実施が可能か、生徒に企画・立案・運営を体験させ、その経験の中で自主性・積極性を伸ばし、生徒の自己肯定感の醸成を図る。
開かれた学校づくり	1	SNSでの情報発信に努め、Facebookについては飯山市役所のFacebookにシェアいただき、1,000人以上の方々に本校の学びの様子や成果を発信した。また、慶應義塾大学SFC研究所アグリプラットフォームコンソーシアム主催の農業高校・農業大学校ホームページコンテストにおいて、今年度も県で1位となるなど、外部から高い評価を得ている。	SNSで生徒のイキイキとした活動状況や特色のある学びをしていることが伝わり、楽しく見ている。今後も情報発信の充実を図り、外部から高評価が得られるようにしてほしい。	4.3	より多くの皆さんに、本校が学ぶことの魅力や生徒の成長を実感してもらえよう。教科、生徒会、クラス、クラブ等でのSDGsの目標達成に向けた活動や学びの成果等のより多くの情報を、SNSを活用して発信する。
	2	全学年で地域連携や地域貢献の取組みを実践することができた。特に3年生の課題研究では、年間をととして充実した取組みができた。また、昨年に引き続き、道の駅「ファームス木島平」で農林市を開催し、地域に開かれた取組みを継続することができた。	コロナ禍においても、地域や他校との交流が盛んに行われており、両者にとって良い関係が築けていると感じる。今後も地域連携を継続してほしい。	4.1	今後も地域を学びのフィールドとして、積極的に地域と関わりながら地域の課題を知り、その課題に取り組める体制を構築する。特に来年度は、1年生の新科目「北信州学」において、積極的に地域と関わりながら、地域連携・地域貢献の芽を生徒の心に植え付けたい。